

平成30年度第2回千葉県博物館協議会会議 議事録

日 時:平成30年11月8日(木) 午後1時30分から3時30分

会 場:千葉県立現代産業科学館 研修室

出席者:委 員 岡本委員(議長)、西田委員(副議長)、内山委員、小野委員、
浅岡委員、細井委員、齊藤委員、関沢委員
博物館 太田美術館長、萩原中央博物館長、上田現代産業科学館長、
谷鹿関宿城博物館長、永沼房総のむら館長
文化財課 植野主幹兼学芸振興室長、乃一副主幹

- 1 開会(傍聴人なし)
- 2 館長挨拶(千葉県立現代産業科学館 上田館長による)
- 3 協議

現代産業科学館 「連携事業について」

・現代産業科学館より、「連携事業について」説明

委 員: 科学館には何回か訪れていますが、安定的な事業運営がなされている
と思います。新しい試みや近隣の大学や地場産業や近隣の商業施設とも
連携がとれている。企画展についてはいろいろな企画が検討されていると
思いますが、今後、リサイクルなど産業の生み出す負の側面もテーマにな
るのではないのでしょうか。

議 長: 多くの連携事業を行っているので、新しい事業にあたる職員体制が
心配。コミュニティをつくり演奏会などを開催している例もあるので、毎週コ
ンサートでできる利用スペースを設置したらどうでしょうか。

現代産業科学館: 交代勤務だが、やりくりしている。多くの方々のご来館いただく取り組み
を、継続させたい。新たな事業については、取捨選択しながら検討したい。

委 員: 小学校の校外学習、理科実験に子供が関わってきた様子を見てきまし
た。校外学習で来館し、創造の広場で楽しませていただいた魅力的な場
所でした。先日来館して感じたことは、一つ目は、プラネタは夏休みだけ
なのではないでしょうか。月や星の動きは4年生の学習内容ですが、学習内容に直

結していると近隣の学校も必要感を感じ、もっと訪れるのではないのでしょうか。二つ目のサイエンススクールは募集とともにいっぱいになってしまった例もあり、子供たちは体験して学ぶことが好きであり、このような事業を必要としています。市川四中ブロック講座、自由研究相談会、出前事業など、学校に来てくれることは非常にありがたいと思います。三つ目に連携がたくさんありますが、現場では若手教員の育成が問題となっており、教員のOB、理科の退職の校長先生が館にいらっしゃれば、この方々に協力していただいて一緒に講座や自由研究に取り組んで頂き、教員の育成に協力していくのも良いと思われれます。企画展はアニメーションもあって面白い展示ですが、ピンポイントで来館者を呼ぶことも重要で、現在実施しているワークシートだけでなく、体験できる展示ももっとあれば良いのではないのでしょうか。

議長：プラネタリウムは適時可能なのではないでしょうか。

現代産業科学館：本館のプラネタリウムは物語的要素が大きく、そのまま学校で活用できる内容かは考えなくてはならないと思われれます。また、委託で実施しておりますが、現在実施しているものをそのままでは難しいと思われれます。教員の研修については、「教員のための博物館の日」を設けています。また、「出張講座」として外部で講座を行う事業も実施しています。

委員：高校ではできない大学との連携。学校では用意できない装置などを使って、専門的な話ができる人をご紹介いただければ利用したいと思われれます。サイエンスドームについても映像を用いた発表やワークショップなどに生徒たちが利用できれば、生徒も喜ぶし、館にとっても大きな売りとなるのではないのでしょうか。総花的でなくとも、高校には特化した事業も必要であり、それにより、利用者も増えるのではと思われれます。

現代産業科学館：本館のドームは球状のため使い方が難しいのですが、館の魅力に繋がるものと思われれます。

議長：社会教育と学校教育の連携となりますが、現場だけでなく教育委員会での調整も必要なのではないのでしょうか。

委員：館を利用している近隣の小学生は多いと思われませんが、館の立地を考えると県南の方々に来てもらうことは難しいのでは。県立の博物館であり、全県的な広がりのためのきっかけは、教員への働きかけとなるオープンデーにあると思われます。夏季休業中に講座のノウハウを持った職員が講座を設け、新任の先生を含めた希望する県南の先生方に来て、館を知ってもらうことが必要と思われます。また、外部に出て講座を行うことも有効であると思われます。人気がある社会教育関連事業にも広報していきますと、市町村をきっかけに連携が広がるのではないのでしょうか。

現代産業科学館：現在、センターでの研修は実施しております。現場の先生方にもっと知ってもらうことが必要と考えております。

委員：平成6年に来館し、何回か来ていますが、鎌ヶ谷市では4年生から6年生までの小学生60名が中学生、高校生、大学生が面倒を見る「サイエンスに挑戦」という事業を行っております。先生役の中学生、高校生、大学生が自分たちで考えて小学生に教える事業です。実際には、パソコンやスマホを用いて作り方を調べ、製作後、実験を行います。今回、空気が見える空気砲を作成しましたが、はじめは煙がうまく作れず失敗してしまいましたが、互いに協力しながら改良し、無事成功することができました。この失敗しながらも成功する体験をしてゆきますと、科学に興味を持つきっかけになると思われます。エコクッキングの講座をきっかけに理科部に入った子も、やってみてその失敗から学んだことが大切であると思われます。

委員：展示・運営協力会の連携のレベルは単発的なものなのでしょうか。連携の理想的な形であり、良い形なのではないのでしょうか。

現代産業科学館：展示・運営協力会とは開館以来、常設展からイベントまで協力関係があります。現在も会員の増減はありますが、総人数はほぼ変わらず協力を得ています。

議長：現代産業科学館は展示・運営協力会を持っているが、他館はどうでしょうか。

中央博：市民ボランティアと連携を行っており、11月に開催した「自然史フェス

タ」では 12 団体が日ごろの研究発表など博物館と一体となった活動をしています。

房総のむら:昔からの伝統の技術を持っている人に来てもらってアドバイザー会議を中心に地元の方、考古学専門の方々にも意見をもらって連携しています。

美術館:友の会が残っており、会員数は増えたが高齢化しています。44 年前から友の会と連携は継続しております。

委員:説明にあった、千葉工業大学の列車ダイヤの講演会の様子を見て、ミュージアムでの体験が子供の一生を決めるのではと思いました。あるお母さんから、子供が無料だったので良く現代産業科学館に来ていて、高校は電車の運転手になるため鉄道業務を学ぶ高校進学し、卒業後、千葉県の運転手になりたくて再度県内の鉄道事業者に入社した話を聞きました。科学館での体験が、その道に就くきっかけとなったとも考えられます。地域を考えますと、海外の人々がミュージアムで日本の産業にふれて職業選択の一助となることにより、スムーズに就職に繋がるのではないのでしょうか。また、外国人向けのイベントも開催できないのでしょうか。特別支援学校や博物館に来られない人に対する配慮もお願いしたいです。現代産業科学館の問題点は北西部で立地に恵まれており、千葉県のミュージアム南北問題を抱えている館だが、南部に同様のものをつくってもうまくいかないのではないのでしょうか。また、館の名称にも含まれている現代産業とは何か。産業の形は変わっているので対応するように考えていただきたいです。亀田総合病院の病院アート、城西国際大学の観光、国際武道大のスポーツなど医療、アート、福祉、スポーツも現代産業であり、もう少し人間の夢、ロマン、感慨、きずなに目を向けたら別の連携が開けるのではないのでしょうか。移動ミュージアムも南北格差の解決に繋がっていくのではないかと思います。

関宿城:連携に関して本館は、調査協力員として7名に調査研究活動に協力していただいている。活動としては、植物の分類に関する調査研究活動やセミナーの開催を行っています。また、ボランティアとして野田市のメンバーに館内ガイドをしていただいております。活動の住み分けもできています。